



地元の声援と幸運に恵まれ、接近戦のなか17位で完走

予選 6位 /31 台中 2' 13.604 (TOP +1.972) ▶ 5月24日(土) 12:00 開始

T2 FACTORYは2019年の開設時より「TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup」に継続参戦しており、社員で専属チーフエンジニアの大橋孝行が組み上げた #56号車「栃木トヨタT2FACTORY BS GR86」に、社員ドライバーの鶴賀義幸が搭乗しています。また、毎戦ごとに各店舗からエンジニア2人がメカニックとして帯同し、レースを通じて技術を磨いています。

地元・栃木県茂木町にある「モビリティリゾートもてぎ」（以下、「もてぎ」）でのシリーズ第2戦が、当チームにとって今シーズン初戦となりました。昨年の最終戦も、もてぎで開催されましたが、良い結果を残せなかったため、地元で好結果を出すための準備を年末から進めてきました。自チームの強みを把握し、マシンとそれに合わせた運転を根本から見直しました。また、タイヤや使用パーツのバージョンアップがあり、それらの確認とレース戦略の再構築も併せて行ってきました。

21日(水)にサーキット入りし、マシン各部への熱入れとデータ収集を開始しました。もてぎでの自己ベストタイムは今回のレースとは時期が異なるため参考にはせず、タイヤグリップをしっかりと引き出せるセッティングとバランス調整作業から開始し、徐々にペースを上げていきました。進化したタイヤ性能に合わせ

て調整したマシンには良い兆候が見られましたが、トップ集団と比べるとタイムは大きく遅れていました。22日(木)と23日(金)は朝晩こそ雨が降るものの、乾いた路面となり、決勝当日に予想されるコンディションに近い条件でテスト走行ができました。順調にベストタイムを更新していきましたが、トップ集団との遅れの原因は究明できないまま、本番を迎えることとなりました。

24日(土)の予選は曇り空で、やや気温が低いなか開始されました。予選は15分間ですが、開始とともにコースへ走り出したのは当チームともう1台のみでした。ほぼ全車が路面のグリップ改善を待ち終了約5分前に一斉にコースインし、走行を開始しました。しかし、最終コーナーでクラッシュが発生し、「黄旗」が表示され、大多数の車両は計測したタイムが無効になりました（安全のため、黄旗が表示された区間でベストタイムを達成しようとする走行は規則により認められません。）。当チームは予選開始後すぐに走り出し、タイム計測を終えていたので、幸運にも過去最高位タイの6位からのスタートとなりました。タイムを計測できた車両は当チームを含み6台のみであったため、7位以下のスタートグリッド順は、開幕戦オートポリス大会の順位が採用された波乱の予選でした。



決勝レースは、前夜に降った雨の影響が心配されましたが、開始時間までには乾ききり、ドライ路面で開催されました。当チームは「GR86レースinもてぎ T2 FACTORY応援ツアー」を開催し、お集まりいただいた約40名のお客様に囲まれスターティンググリッドに着きました。温かい声援を直接いただき、気合十分でスタートしましたが、背後にはチャンピオン経験者を含む実力者が多く控えており、抑えきことは困難でした。1コーナーで外側にノーズを差し込まれてから悪い位置取りが続き、5コーナーでイン側からの強い接触を受けてスピードを失うと、1周目で14位まで後退しました。その後もかわされ、後続車とのバトルが数周にわたり続きましたが、プロフェッショナルシリーズらしいクリーンな攻防で大きなトラブルには至らず17位でレースを終えました。順位こそ大きく落としましたが、従来のレース終盤で周囲に対してペースが極端に悪くなる現象を、タイヤの進化とメカニカルグリップの改善により克服できることを確認でき、次戦に向けての収穫が得られました。また、ライバル勢が1大会分多く走行している中、今回のレースを完走したことでまとまった走行習熟時間を確保し、着実にチームとして前進することができました。

今回のレースには、以前のレースにも参加経験があるエンジニア2名が同行しました。プライベートでも車好きで、レース等において車両が限界域で走行する現場に慣れていたのも、チームの安定感は大きく増したと思います。とはいえ、久々の参加であったので、慎重に緊張感をもって、メンテナンスを行っている様子でした。もてぎは特に高い負荷がかかるサーキットで今回もリタイヤ車両が複数出ましたが、メンテナンスの甲斐あって当チームは安心して全力で走行することができました。

応援ツアーは今回が6回目の開催で、年々規模を拡大しています。初めて参加されるお客も多かったのも、レース前後には、ドライバーの鶴賀自らドライバー目線でレースの見所やレースの結果を解説しました。そのせいか、スタッフとお客様との会話も自然と弾み、イベントを通じて温かみのある雰囲気が出ていたことが印象的でした。また来年以降も、お客様に喜んでいただくことはもちろん、お客様やスタッフ同士の絆が深まる場となるよう、努力してまいります。

皆さまの応援のお力をいただき、今大会も走り抜くことができました。誠にありがとうございました。今後とも、温かいご声援をお願い申し上げます。

ドライバー鶴賀のコメント

今シーズンもこの場に参加させていただき、深く感謝を申し上げます。第2戦からの参加で不安はありましたが、スターティンググリッドが多くのお客様で囲まれたとき、大変心強く感じました。幸運にも上位グリッドからのスタートでしたが、不思議と緊張がなかったのはそのおかげかもしれません。順位こそ大きく後退しましたが、週末を通してひとつひとつの細かい状況判断に間違いはなく、集中力を保ち納得のいく大会をやり遂げたと感じています。エンジニアの皆さんは何度もコミュニケーションをとっているメンバーで、楽しみながら適確に作業をしてくださりました。地元で多くのご支援・ご声援をいただきありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

